

どんびま

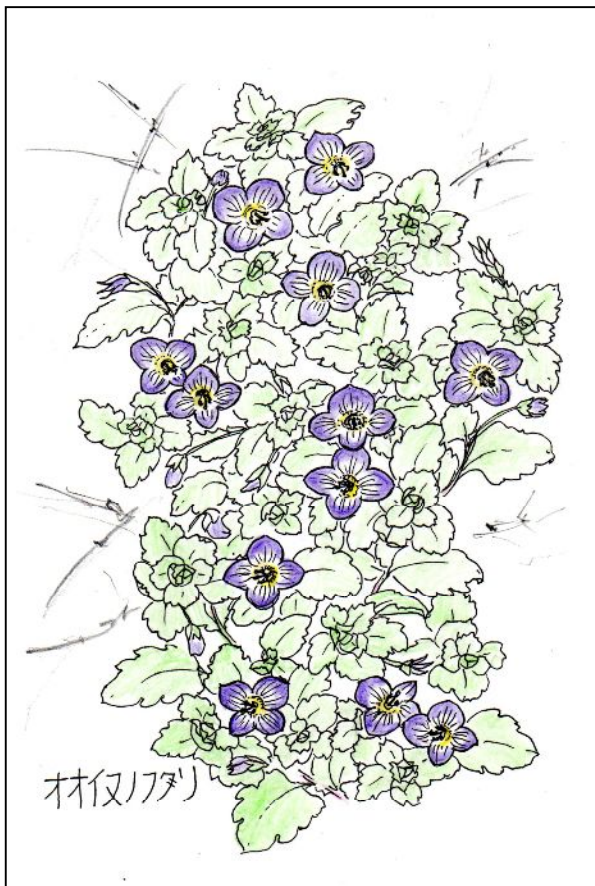
2015年3月13日発行
発行者 椛の湖農業小学校

春を待つ

マンサクの花は盛りを過ぎたかに見え、フクジュソウは大きく伸びて、すっかり春の気分であいらいきなり冬に逆戻りした。入学式の朝辺り一面真っ白な年もあったように、この季節の雪が珍しい訳ではないが、25cmも積もったのは稀である。

さんさ酒屋のコンサートのゲストの泊まりが翌日のスケジュールの都合でホテル泊と決まったので、孫娘のために奥殿にお雛様を飾った。我が家に伝わる古い土雛と、家内が子どもの頃遊んだという小さな雛と、長女が生まれた時に買ってもらった段飾りの雛が並んだ前に、これだけを新しく買った孫の「名前の旗」を立てた。

この地方のお雛祭りは4月3日か、旧暦の3月3日に催す。その時期でないと桃の花が咲かないのだ。農業や農村の暮らしには旧暦の方が実際の気候に合っているように思われる。(草)



3月授業日のご案内

- | | | | |
|----------------|-------------|------------|-----------------------------|
| ●日程 | 3月29日(日) | ●服装 | 作業のできる服装 |
| 受付 | 9:00~9:30 | ●持ち物 | 手袋、タオル、長靴、雨具、食器(皿、汁用椀、湯のみ)箸 |
| 入学式 | 9:30~11:00 | | エプロン、軍手(五平餅焼き用) |
| グループ紹介 | | | 寒さ対策もお忘れなく。 |
| 学校・農場の説明 | | | |
| グループ活動 | 11:00~12:00 | ●昼食 | 五平餅(グループ活動の中でみんなで作ります) |
| 昼食 | 12:00~13:30 | | 豚汁など |
| 授業 | 13:30~15:00 | | |
| じゃがいも植え | | | |
| ほうれん草・にんじんの種まき | | ●返信はがき締め切り | 3月25日(厳守) |
| 終わりの会 | 15:00~15:20 | | |

●問い合わせ・緊急連絡 TEL 0573-75-4417 ・090-5110-9362(山内總太郎)

～とくちゃんの農小レポート～

椀の湖農小課外授業活動報告

12月より2月までの休校期間を利用して行なう、恒例の「物作り体験教室」も8年目を迎え、年々参加者が増えてきました。第21期の活動報告をいたします。

*12月23日(祝) 8家族 24名参加。

午前。 縄ない練習と注連縄(メなわ)づくり。

午後。 花餅は地元の方の応援を受け、白・赤・緑の3種の餅を搗いて頂き、各家族2個宛ての台木に綺麗に飾りつけ、飛騨の作品に負けない見事な花を咲かせて持ち帰りました。

*1月4日(日) 6家族 22名参加。

午前。 ダイヤ凧(低学年)と六角凧(高学年)。夫々好みの絵を描いて竹骨を張り糸を着けて仕上げましたが、残念ながら天候が悪く揚げて見る事は出来ませんでした。3月には持参して揚げてみて下さい。

午後。 左義長(どんど焼き)体験として、安保兄が集めてくれた材料を使って、自分たちで作り上げた左義長に点火しました。燃え残ったオキで餅を焼き今年一年の健康を祈りながら食べました。

*2月22日(日) 3家族 9名参加。

午前。 キャンプの物作りでお馴染みの加藤緑先生を招き、Tシャツの絞り染めを行ないました。個性あるTシャツが出来上がり満足そうでした。

午後。 昔から伝わる中津川地方の銘菓「からすみ」を作りました。富士山の形をした木枠を使い、米粉を熱湯で捏ねた白・赤・黒糖・胡桃の4種で仕上げ、試食をしたあと各自2本を持ち帰る事ができました。

～安保兄の百姓ぼなし～

大きな春を迎えた椀の湖農業小学校

今年の冬は、北海道・東北・北陸では大雪であった。県内を見ても、この地方では少なかったものの、少し北の地方では12月の降雪が多く、雪で折れたり倒れたりした樹木で、道路が塞がれたり、停電するなどの災害が起きた。

昨年12月末に、姉妹校の高山市荒城農小と合同忘年会を企画したものの、高山地方が大雪の為、雪降り作業などで全員欠席となった。会場の下呂市でも、前日までは、通行止めや停電があって大変だったと聞いた。2月に卒業式に行った時にも、屋根には1mもの積雪が残っていたり、降ろしてはあってもその残雪を片付けるのに多額の費用がかかると云うことだった。2月24日付の報道によれば、全国120地域へ特別交付金が出たと云うほど今年の降雪量は多かった。

環境省と気象庁が昨年12月に出した予測では、今のペースで温室効果ガスの排出が増えたと、今世紀末には日本の平均気温は4.4度上がり、降雪量は全国平均で今年の130cmが57cmも減ると云う。温暖化で雪が雨に変わってしまう一方、暑さに因る死者は2倍以上になるとの予測もある。

「立春」を過ぎて「春一番」が吹くと春が待ち遠しい。2月19日は二十四節気の「雨水」という。氷が融け、雪が雨に変わるとされる日だ。「雨一番」という言葉もある。雪やミゾレでなく雨だけが降った時を言う。

22期目を迎えるこの春、椛の湖農業小学校は第74回中日農業賞特別賞を受賞する栄誉に浴した。まさに春が来た気分であった。

2月27日中日パレスでの贈呈式には、鈴木・小林・山内との4名で行って来た。いただいた賞状の文面に「あなたがたは伝説の全日本フォークジャンボリーを成功させた情熱を食農教育に注ぎ込み『耕し人成る』を実践し続けています よってここに・・・」とあったのにはおどろいた。椛の湖の歴史に確かな1ページを記した喜びが湧き上がってきた。

21年の間、中京圏から通っていただいた生徒と家族の皆さん、先生・スタッフとして支えていただいた地域の皆さん、OBスタッフの皆さん、そのお蔭で現在があり、その継続と成果を評価されたと思っている。

坂下町と町内の皆さんには、40余年前人口の何倍もの人が集まった全日本フォークジャンボリー以来、我々の活動に理解と支援をいただけたからこそ、今まで続けられたのだと、深く感謝している。

農小が始まるきっかけとなったのは、日本の農小の生みの親、児童文学作家の今西祐行先生の「農業小学校のうた」という絵本に出会ったことだった。

思い出してみると、発起人10人の仲間で荒れた桑園約2haを無償で借り、整地して畑にするまでに1年間かかった。学校を名乗るものの、教育経験者は鎌田前校長ただ1人だった。雨宿り（陽避けも兼ねて）できるのはビニールハウス1棟、炊事場も小さなビニールハウスであった。ある教員経験者からは「100人もの生徒を受けるのは無謀」とさえ言われた。

農小は、1994年都市と農村の交流をかかげて開校した。初年度入学生は104名になった。

農業体験を通して収穫の喜びを知り環境や自然にも関心を持ったり、昼食には米や野菜を使った郷土料理を作って食べたり、今風に言えば食農教育をやってきたことになる。過疎化する農村に都会から毎月300人の親子が通ってくれた事が力になり、先生役のおじいちゃんおばあちゃんたちの笑顔が広がった。

伝えたいことはいっぱいあった。農民は百姓ともいう。百姓とは元々百の仕事ができる人の意味で、昔の農民は米野菜作りはもとより、そのための道具から、石積み、小屋まで建てる物作りの達人だった。農村には生活の知恵があり、生き抜く力があつたと思う。それも伝えたいと「もの作り教室」を開いた。



当たり前だが、子どもたちは農作業より虫捕りの方が面白い。それは小さな命との出会いで、子どもたちには大切な体験だ。最近の凶悪な殺人事件と低年齢化をみても、児童期における命と関わる体験がとても大事だと思う。

春、皆さんとお会いする日が待ち遠しいです。
入学式には、こんな顔でお迎えする校長のあぼ兄です。
よろしく。

～かなちゃんの虫日記～

だんだんと日^ひが長^{なが}くなり、あたたかくなってきましたね🌸
 ようやくこたつからでてお散歩^{さんぽ}にいらつという気分^{きぶん}になってきました。
 まさに啓^{けいちつ}蟄^{ぢつ}ですね。今年^{ことし}は3月^{がつ}6日^かでした。



= ひらく

= 虫^{むし}などが冬^{ふゆ}ごもりしてる



冬^{ふゆ}ごもりの虫^{むし}がでてくる

虫^{むし}によって冬^{ふゆ}ごもりのやり方^{かた}はいろいろです。

<p>たまご 卵^{たまご}で。 カマキリ、 マイマイガ など</p> <p>毛^けにおおわれてる</p>	<p>ようちゆう ムカ虫^{むかむし}で。 クワガタ カブトムシ など</p> <p>つるなか 土^{つち}の中で</p>
<p>さなぎで。 モンシロチョウ、 ヨトウガ など</p>	<p>せいちゆう 成虫^{せいちゆう}で。 アメンボ テントウムシなど ナミテントウ ものかけで</p> <p>りく 陸^{りく}で、おぼ 落^{おぼ}ち葉^はの下^{した}でか</p>

虫^{むし}たちは自分^{じぶん}にあ^あったすこ^{かた}し方でそれぞれがんばって冬^{ふゆ}をのり
 きてます。すこいですね！こたつもなしで、尊敬^{そんけい}します！
 (冬^{ふゆ}ごもりからさめるには、一定期間^{いっていまかん}寒^{さむ}さにあたらないといけないことが
 多いので、むしろ虫^{むし}たちにはこたつはいらないですが...)
 春^{はる}、虫^{むし}にでくわしたら、ごくろうさま、冬^{ふゆ}こせてよかったね、と
 言^いいたくなります。